

## 芦生キノコ散策

【日程】2013年11月9日

【エリア】京都北山

【形態】ハイキング

【メンバー】浜矢2、松尾、山本、近藤、手嶋、高岡、梅屋、吉住、太田

【報告】手島



《ルート／タイム》

10:00 出合橋分岐付近～10:50 P 289～11:20 P 379～12:30 野田畑峠～

キノコ散策・鍋～14:50～15:50 P 767～16:20 P 519～17:00 P 289 ～17:40 駐車地

## 《報告》

11月9日

芦生は名前しか知らず、参考にと事前に送られてきた Web サイトには遭難への警告までであり、研究林なのに遭難や事故が多いので注意とはどのような場所なのだろうと思っていた。今回は福井側から入るということで、車2台に分乗して一気に小浜の辺りまで走り、芦生に至る林道を入れていく。林道の横の川に岩や石が見えず、砂状で浅く澱み殆ど流れていない箇所を見て奇妙に感じたが、更に奥へ林道を進むうちに、先日嵐山に大被害をもたらした台風の跡らしいと気づいた。林道脇の柵の隙間ごとに木の根株が引っかかっていたり落石跡が残っていたりで、途中で車を諦め、かなり手前から徒歩で先へ進む。道がかなり深くえぐれているような所もあった。林道の奥には廃村があり、ダム建設計画で立ち退きになったと後に見た Web 上にあった。



(左右)いずれも P289 から 379 へ至る沢道

想定外でかなり手前から歩き始めたのもあり、当初計画の三国岳まで行かず上谷までを目指すことになり、何度も渡渉し道無き道を進み(数日前に近所で入手したゴム長靴がこんなに活躍するとは思わなかった)、最後に森の底のような美しい場所に着き、企画者の太田さんがここまで来たかったわけが分かったような気がした。写真では実際の雰囲気あまり表現できず残念なのだが、特別な場所と思えるような空間で、そこまで来れたのをありがたく感じた。

キノコ博士の松尾さんによると、今年は夏の猛暑と度重なる台風等の影響で、まだあまりキノコが出ていないという。それでもおいしい具だくさんの鍋に更にクリタケ、ムキタケ、ナメコ等山の幸を加えることができ皆で囲んだ。長く火の上にあった最後の分は旨みが更に増し、驚くほど極上の味になっていた。





(左) クリタケの群生



(右) 野田畑谷の台地

秋のやわらかい日差しの中で真新しい落ち葉を踏んで歩いている時、明るい紅葉の枝尾根を歩いている時、昼食をとった「森の底」を目にした時、とても幸せだった。また林の中を歩いていると時おり甘く芳しい香りがして、桂や柏の木があると森の中が香るのだと聞いた。

行きにはコンパスでの位置合わせを教えてもらい、磁極の誤差角度を地形図に線に入れておくのだが、近畿の辺りは7度ほどで地域によって磁北線の角度はかなり変わってくるという。少しのずれが大きな距離や方向の違いにつながるので、入り組んだ地形での読みとりはかなり慣れが必要だと感じた。GPSを持っている人達もいたが、現在地がピンポイントで表示されたり辿ってきた足取りも自動的に記録されたり、とても心強いツールのようだ。

事前に研究林 Web サイト上で見た遭難や事故へのかなり量のある注意喚起で、芦生とは一体どんな所なのかと思っていたが、実際に行ってみると小さい尾根や谷がたくさんあり迷い込みのリスクがあったり、整備されていない所が多く、山肌斜面のとても狭い部分のトラバースも多く滑落等の危険があること、樹皮に熊の爪跡のようなものも見られたりするような環境でもあることなどを実際に目で見て腑に落ちた。森はとても深く、後で改めて Web 上の情報を見ると、今回入ったエリアは研究林北端のほんの一部分で、更に広大な森がずっと続いているらしい。山中では時おり鹿の呼び声を耳にし、テンのような何か小動物を見た人達もいた。最後に車に戻って林道を走る間も何度か鹿に出くわした。



(左) 採取したキノコを大鍋で頂く



(右) 野田畑谷から涸沢を遡行する

昼食をとった上谷に長くいたので発つのが遅くなったが、地形図を見ながら取るルートを柔軟に変更していく太田さんを見て、こういう対応できる力を身に付けたいと思った。周囲が闇で見えなくなる前に無事に林道の外れに下り、長い林道歩きの最後にヘッドランプを点けた。奈良からの移動時間が長いので、前夜泊か山中1泊向きかもしれないという声もあった。ちょうど昼に皆で囲んだ鍋物のように、ゆっくりと時間をかけるほどに更に味わいが深まるのではと思える場所で、また機会があれば時間に追われずゆったり散策してみたい。

今回久々に参加し、背景も立場も異なる様々な人達が同じ目的のために集まり行動を共にする、というひとくるみの時間そのものにも面白さを感じた。ご一緒できた皆様、諸々ありがとうございました。